

次回は第79回「資本論を読む会」

☆9月26日（金曜日）午後6時30分—Zoom開催

DAS KAPITAL



Marx & Engels

第6章「流通費—第2節保管費・第3節運輸費」

[岩波文庫(四)p201-]

第78回になった「資本論を読む会」は8月25日（月）10名の参加でした。

前からの学習でも指摘されていたことでもありますが、たしかに「第5章流通期間」に入り、W—P—Gとかいうアルファベットもほとんどなくなり、「資本論としてもスッキリとして」(?)わかりやすい文章になりましたね??。

今回の読み合わせは「資本がその循環を描く全期間は、生産期間と流通期間と

の合計に等しい。」で始まる流通期間と、その個別論とでも言うべき第6章「流通費」（第1節純粋な流通費—1売買期間・2簿記・3貨幣）までをやりました。議論になったのは、「流通期間・流通費は新たな価値を生まない」という趣旨のマルクス説に対して、以前から議論になったことでもありましたが「生産的労働と非生産的労働」に対する理解、「将来の人間社会は、価値を生まない人々が幸せに生活する社会（生産的労働の減少）」という表現が気にかかる。「それが人間の理想なのか」などという率直な討論でした—かな？ この議論が正確かどうかは別にして、「資本論を勉強している」と実感できる討論ですね。

ということで、次回は9月26日（金）、第6章「流通費（第2、3節）」の続きをやります。今回のレポーターはKaiさんでしたが、次回はSAK林さんからです。楽しくやりましょう。

終了後の懇親会での話題—①新「資本論を読む会」（新メンバーで）が準備中です。支局でも呼びかけられると思いますが、全道的に関心あるひとを募集しています。始まるとなかなか途中参加が難しくなりますので、積極応募歓迎!! ②事務局を含めて皆さん年齢相応の罹病（狭心症とか色々）を抱えていて、この話題が拡がりました。皆様のご健康を祈念しております。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coccan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから—Kaiさん

第二巻 資本の流通過程 第五章 流通期間

* 資本は「生産過程」で剰余価値を生産し、「流通過程」で“これを”実現する。

* 「生産過程」に資本がとどまっている期間が資本の「生産期間」であり、「流通過程」でとどまっている期間は資本の『流通期間』である。

* 資本の循環の全期間は「生産期間」と「流通期間」とからなる。* 「生産期間」は不変資本のある部分については「労働期間」と「非労働期間」とに分けられる。「非労働期間」中でも生産手段の生産物への価値移転はおこなわれるが、生産資本の価値の増殖はおこなわれない。

* 「生産期間」と「流通期間」は相互に排除しあう関係にある。?手持ちの資金が不足すれば、売られた代金で次の生産を再開しなければならぬ。売れない間は新しい生産が行なえない。?

第六章 流通費 第一節 純粋な流通費

* 流通費は価値を形成せず「不生産的」であって、「不可避免的な空費」に属する。⇒「不生産的空費」

* 流通費は各資本家にとっては一つの「支出」である。彼の資本部分を減少させ、彼の剰余価値から「補填」されるほかない。

* 流通費は彼の剰余価値からの一「控除」分をなす。* 流通部面で使用される労働もなんらの価値をも形成しない。

* この労働は彼の資本家の価値増殖の消極的制限（「支出」「補填」「控除」）を減少させるだけである。

* 純粋な流通費には、直接に売買のための費用だけでなく、簿記に要する費用と貨幣とがふくまれるが、いずれも「不生産的」で価値を追加するものではなく、「商品生産の空費」に属する。